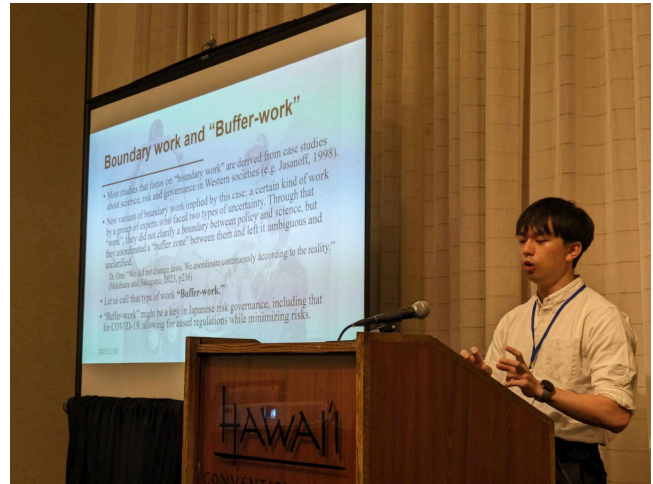


Society for Social Studies of Science 2023 Honolulu への参加の報告

Society for Social Studies of Science は 4S、国際科学技術社会論学会とも呼ばれ、科学技術と社会の関係性を研究したり科学技術そのものを人文社会学の方法で研究したりする科学技術社会論領域では最大の毎年開催される学会である。私は博士・修士渡航助成のもと、公衆衛生学の専門家を対象としたインタビュー調査に基づいて専門家がどのように政府に助言するべきか、科学と政策の関係はどうあるべきかを問うテーマで、「Strategic Usage of 'Uncertainty' in Expert Advice: A Case from COVID-19 and Public Health Advocacy in Japan」（専門家助言における「不確実性」の戦略的利用—日本における新型コロナウイルス感染症と公衆衛生政策提言のケースより）という発表をした。私が参加したセッションは専門家論に関わるもので、私の他には中国の心理療法の制度の議論、被専門家の知識生産への参加といったテーマに関する発表があった。



私の発表の詳細よりも、まず参加したことでわかった学会、国際学会としての特徴を述べたい。今年度はアメリカ合衆国ハワイ州ホノルルというリゾート地で開催されることもあってか、通例では夏に開催されるところ 11 月開催となった。まずハワイ諸島で学会が開催されるにあたり、実行委員会からはハワイの先住民に対するリスペクトや、自身の民族的バックグラウンド及び植民地支配に与した者たちと背景を共有していることに向き合うことが推奨された。4S ホノルルは対面と zoom ベースのオンラインのハイブリッド型で開催され、実行委員会の研究者の一人が zoom イベント？をカスタムしたウェブベースのオンラインシステムを用意してくださり、その学会セッションタイムラインを通じてセッションごとに zoom の参加リンクがウェブ上で生成されるシステムであった。しかし急遽オンライン参加になった参加者も多かったためか、毎日朝一の発表等では機材トラブルも少なくなかった。発表者は博士課程の院生から既に名前が広く知られた研究者まで幅広かった（2019 年に参加した際には、学部生の発表及び交流の場もあったが今年度はそういったものは見かけなかった）。ハワイ開催であることもあり、北米を拠点とする研究者が多かったように思う。

私の発表は、本助成を含む多くの方々のおかげで、上手く行った。過密スケジュールもあり質疑応答の時間は十分ではなかったが、同じセッションに参加した研究者と後に時間をとって話すことができた。こういった点は対面の学会ならではだと思ふ。COVID-19 の影響こそ弱くなったとは言え、円安、アメリカにおけるインフレ、燃料代の高騰等は国際学会に参加することにとって逆風である。蓋を開けてみれば日本からの参加者はだいたい同じ高額リゾートホテルに囲まれた安いホテルに滞在しているなんてこともあった。しかし、未だそれでも価値に見合う学会発表の機会をいただけたことに対する感謝をもって本報告書を終わらせていただきたい。